

■＜参考資料＞中小企業診断士第2次試験の出題の趣旨

中小企業診断協会が公表している出題の趣旨です。

平成22年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅰ」の出題の趣旨

第1問（配点30点）

A社の主力事業である砂糖業界の環境変化と事業展開の変容に関連して、中小企業診断士としての基本的理解力と分析力を問う問題である。

（設問1）

食品原材料業界の流通において一次問屋として事業を成功裡に展開してきたA社に対して、二次・三次問屋とのネットワークが果たしてきた機能を問うことによって、業界構造の変化について分析力を問う問題である。

（設問2）

経営環境の変化によって事業展開の方法がどのような変化を迫られたのかについて、商品特性を踏まえて分析する基本能力を問う問題である。

第2問（配点30点）

業界の大きな構造変化の中で転廃業を迫られている取引業者の友好的買収に関連して、中小企業診断士としての基本的理解力と分析能力、助言能力を問う問題である。

（設問1）

A社が友好的買収を推進する目的と、それを実施した結果として得られる効果を分析する能力を問う問題である。

（設問2）

傘下におさめた企業の従業員に対する処遇・待遇が、それ以外の従業員に対する影響に関して、分析能力と助言能力を問う問題である。

第3問（配点20点）

家族主義的経営を標榜して年功序列型賃金制度を柱とする中小企業であるA社が、経営環境の変化と体制転換の中で、いかなる人事制度・賃金制度を構築すべきかに関して、中小企業診断士としての分析能力と助言能力を問う問題である。

第4問（配点20点）

市場の成熟化が進む中で、事業拡大を志向するA社が、新規事業展開を行うべきか否かに関して、中小企業診断士としての分析能力と助言能力を問う問題である。

以上

平成 22 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅱ」の出題の趣旨

第 1 問（配点 10 点）

現社長が行った経営再建策により解決した、B 社のマーケティング戦略上の問題点について、分析力を問う問題である。

第 2 問（配点 30 点）

大手スーパーなどとの差別化をするために、B 社が行ったマーケティング戦略について、2 つのターゲットを見極め、それぞれのターゲットに与える便益について、分析力と応用力を問う問題である。

第 3 問（配点 10 点）

B 社の現社長が、従業員満足を実現し、B 社に対する従業員からのロイヤルティを獲得するために行ったインターナル・マーケティングについて、分析力と問題解決能力を問う問題である。

第 4 問（配点 20 点）

B 社が発行するポイントカードの機能を拡大することによって、B 社の顧客に与えるさらなる便益について、分析力と応用力を問う問題である。

第 5 問（配点 30 点）

B 社が行う様々な地域密着のエコ活動や社会貢献を通じて、B 社へのロイヤルティを獲得するための戦略について、分析力と応用力を問う問題である。

以上

平成 22 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅲ」の出題の趣旨

第 1 問（配点 20 点）

自動車業界における 2 次部品メーカーである C 社の強みと弱みについての分析能力を問う問題である。

第 2 問（配点 40 点）

（設問 1）

単一工程の部品加工を主力としてきた C 社は、Y 社からの組立工程の移管計画に対してどのようにコスト面の対応をするかについて、問題解決能力を問う問題である。

（設問 2）

Y 社からの組立工程の移管計画に対して、C 社生産現場で予想される課題についての分析能力とその問題解決能力を問う問題である。

第 3 問（配点 20 点）

生産リードタイムの短縮およびコストダウンを達成するために、取引先と共有する必要がある生産管理に関する具体的情報データ項目の分析能力を問う問題である。

第 4 問（配点 20 点）

取引先の 1 次部品メーカーと共同で事業を実施するにあたって、技術を生かし 2 次部品メーカーとして独自の経営を維持していくためには、C 社はどのような戦略を立てるべきなのかについて、分析能力と助言能力を問う問題である。

以上

平成 22 年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第 1 問（配点 40 点）

D社の財務諸表と同業の業界中位企業の財務諸表をもとに、財務指標からD社の長所または短所を発見する経営分析能力を問う問題である。

第 2 問（配点 25 点）

（設問 1）

製品の納入価格の低下と受注量の増加を受けて損益分岐点売上高がどのように変化するかについて、動的に分析する能力を問う問題である。

（設問 2）

損益分岐点分析の結果をもとに、納入価格の引き下げの大きさと受注量の観点から分析する能力を問う問題である。

第 3 問（配点 20 点）

（設問 1）

設備投資を行うことで原価の引き下げが可能である状況で、この設備投資のNPV（正味現在価値）を計算し、同時に損益分岐点売上高に与える影響を分析する能力を問う問題である。

（設問 2）

設問 1 の結果にもとづいて投資案の採否を判断する能力を問う問題である。

第 4 問（配点 15 点）

（設問 1）

将来の金利変動によって、保有債券の価値にどのような影響が出るか、そのリスクについて分析する能力を問う問題である。

（設問 2）

将来のプロジェクトに向けた資金運用として、債券を保有している状況で、将来キャッシュフローを踏まえて金利リスクを管理する方法について問う問題である。

以上